

「わが家のしれいとう」

わたしは、お母さんとお父さんと弟の四大家族だ。そんなわたしの家族にはやくわりがある。お母さんはしれいとう、お父さんはたいいん一、わたしはたいいん二、弟はたいいん三だ。一見しれいとうと言うとめいれいしたり、いばつてい

るイメージがあるが、うちのしれいとうはちがう。とにかく家族のためにひしに生きるしれいとうだ。前にお父さんから、しれいとうは大へんなやくわりだからたいいんたちできよう力して、しれいとうをたすけて行こうと言われた事がある。わたしはその時少しわかんをもった。しれいとうって一番楽なやくわりだと思ったからだ。でも、そこにはとても深い意味がある事を知った。うちのしれいとうは、くわしくは書けないが、じゅうどのハンディをかかえている事を。でも、うちのしれいとうは本当にすごい。わたしのほいく園や小学校のありとあらゆる行事のビデオに、前の人頭がうつつていてビデオは一つもない。つまりいつも一番前のせきで、わたしをさつえいしているのだ。わたしのすんでいる所は、わりと一つの学年が二クラスあったりとな数が多い。その中で、つねに一番前のせきをとるのは大へんだと思う。でも、その行事のおたよりがくばられてから、うちのしれいとうはめんみつな計画を立てている。

また、この「いつもありがとう」作文コンクールもそうだ。さく年わたしはか作にえらばれた。その時、わたしがボツ

と言った、「さいゆうしゆうしようがよかつたな。」と言う言葉で、うちのしれいとうは聞きのがさなかつた。その日から、本当に時間がない時をのぞき、毎日二時間本の読み聞かせをしてくれるようになった。

わたしだけではなく、弟がたまごアレルギーとおいしやさんに言われた日から、うちのしれいとうは夕食にはたまごを一切使わなくなつた。ハンバーグにも、サラダにも、スープにもたまごは一切使わない。家族みんなで同じ物を食べたいと言う思いからだと思う。まだまだほかにも、うちのしれいとうのすごい所はたくさんある。どれもこれも家族の事を思つての事しかない。

そんなうちのしれいとうが一番大せつにしている事は、声かけだ。ごはんを食べる前には、「いただきます。」それでおわらず、かならずその「いただきます。」にたいして、「はい。」と言う。相手をかなしい気持ちにさせてしまったら、「ごめんね。」、うれしい事をしてくれたら、「ありがとう。」と言う声かけについては、うちのしれいとうはきびしい。だからまだ二才になつたばかりの弟もちゃんと声かけはきちんと出来る。そんなうちのしれいとうは一年中あせを大りようにかいて動いている。きつとたいいんたちのなみだの分を自分のあせにかえて。

お母さん、いつも本当にありがとう。

渚井 華望